



## ベア一律 10,000 円要求満額獲得！！

### 2023JR 総連春闘勝利に向けた東京地本見解

3月2日、私たちの要求である申9号「2023年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」第1回交渉が行われた。組合からは要求の趣旨説明を行い、会社からは状況認識と基本スタンスが示された。

組合からの趣旨説明では、①21春闘の定期昇給カット、この間のベアゼロや手当の低額回答、ならびに物価高が拍車をかけ「物価上昇に賃金が追い付いていない」と、実質賃金が大きく目減りした実態。②柔軟な働き方（融合と連携）など各種施策により多能化が進められ「過去最高の働き度に賃金が追い付いていない」実態。③若手を中心に離職者が急増化し、人材流出が止まらない。モチベーションが低下している問題意識と生活実感、労働実感の3点の実態。また、会社は有利子負債が1兆円を超えたことを強調しているが、黒字に転換させた私たちの「職場の努力に報いる」経営姿勢を示すべき。と堂々と主張した。

一方会社は、①基準内賃金は、総額人件費に多大なる影響を及ぼすことから、中長期的な動向も勘案して慎重な判断が必要。②当社の基本給は、職責・職能・資格等級・生計費水準等の様々な要素を総合的に勘案して決定していく。定期昇給やベースアップは、環境の変化に対応するための生産性向上に対する社員の貢献分への成果配分という観点を基本として、その時々状況などに応じた要素を加味しながら、毎年度の経営状況を踏まえ、総合的に勘案して決定する。③第3四半期決算で黒字を確保したが、当初想定していた計画には達していない。より一層の収益確保とコストダウンが必要。④有利子負債は1兆円増加し引き続き厳しい経営であることは改めて認識すべき。と経営の「厳しさ」をことさら強調し、私たち組合員の努力や物価上昇が生活を圧迫している現状について一切言及せず、スピード感を持った構造改革の経営スタンスに終始した。

東京地本は「一人一要求」を取り組み、要求内容を情報化し、23春闘のたたかいを職場から積み上げている。そもそも我が社は鉄道主体の業種であり、鉄道労働の特殊性をベースにした手当があってこそ生活できる賃金水準であった。

しかし、会社は様々な特殊性をそぎ落とし、手当で廃止、削減によって働くモチベーションを低下させ、経営幹部による「ベア慎重」発言、一部社友会による低額要望による「低額相場」形成など、私たちのモチベーションを低下させるばかりである。

もう我慢の限界である。明日3月7日は第2回交渉を迎える。いよいよ23春闘の賃金交渉は大詰めを迎える。組合員の声は怒りと悲痛な声のオンパレードだ。会社は職場の切実な声を真摯に受け止めるべきである。

私たちは、厳しい会社のスタンスを突破するために、さらに未加入者も含めて職場の声を結集し、最後まで23春闘勝利・ベア満額獲得に向けて、最前線の本部交渉団の闘いを支え、たたかい抜こうではないか！！

2023年3月6日

東日本旅客鉄道労働組合  
東京地方本部